

研究課題名	大腸癌肝転移の治療と予後
研究期間	実施許可日 ～ 2035年12月31
研究の対象	2001年1月1日から、広島大学病院消化器外科にて大腸癌肝転移の外科治療を受けられた患者さんを対象とします。
研究の目的・方法	<p>研究目的：大腸癌は肝転移を起こしやすい癌です。我が国において約10%の大腸癌の患者さんは発見時に肝転移を伴っており、また大腸癌根治切除後の約7%の患者さんは肝転移再発を起こすと報告されております。大腸癌のガイドラインによると、大腸癌肝転移に対する標準治療は肝切除ですが、肝切除後の再発は抗癌剤が進歩した現在においても多くみられます。大腸癌肝転移再発をできる限り予防するために、大腸癌肝転移の治療を行った患者さんのデータを収集、解析し、大腸癌肝転移に対する治療の向上を目指します。</p> <p>研究の方法：研究対象者の診療録（カルテ）内にあるデータを使用して大腸癌の肝転移について調査します。また、2001年1月から2014年12月の間に、診療用に採取した病理検体の残余分を使用して、解析をします。</p>
研究に用いる試料・情報の種類	<p>情報：年齢、性別、身長、体重、罹病期間、原発大腸癌の手術情報および病理所見、輸血歴、飲酒歴、既往歴、術前の血液検査、肝転移の手術情報、病理所見、肝組織所見、術後の合併症、術後の治療法等）</p> <p>試料：癌組織（個人が特定出来る情報は転記しません）</p>
外部への試料・情報の提供	本学単独研究のため外部への提供はありません
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日(2015年6月1日)以降
個人情報の保護	試料・情報は解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないようにします。調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。
研究組織	<p>本学の研究責任者</p> <p>広島大学医系科学研究科消化器・移植外科学</p> <p>教授 大段 秀樹</p>
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としないので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究

